

仮名書道はジグソーパズル

—仮名文字を使った表現方法—

Kitayama Satoka

北山 聡佳

奈良教育大学 美術教育講座

仮名書道はジグソーパズル

—仮名文字を使った表現方法—

奈良教育大学 美術教育講座 北山 聡佳

1. はじめに—仮名のなりたち—

中国から日本へ漢字が伝わり、日本人はそれを使って、独自の文字「^{かな}仮名」を発明しました。そして現在、私たちは仮名の中でも「ひらがな」と「カタカナ」の2種類を使っています。しかし、それらだけを学校で習うように決められたのは、1900年のことでした。意外と新しいと思いませんか。

文字を持たなかった日本人は、漢字の音をヒントに、いろんな人がいろんな仮名を発明しました。そうすると、「あ」という音を文字にしたものが、何種類もできます。ある人は「安」を使って、ある人は「愛」を使って、ある人は「悪」を使っているような状況です（もちろん、一人で何種類も使う場合が多くあります）。しかも、漢字には様々な書き方（これを「書体」といいます）があり、例えば「安」だけでも何種類もの書き方があるわけです。そうすると、どの音を表すにもたくさんの文字や書き方が生まれます。

皆さんは、ひらがなとカタカナを学んだときのことを覚えていますか。初めての文字学習で苦労したのではないのでしょうか。しかし、それが1900年よりも前だったとしたら、もっと多くの仮名を覚えなければならず、もっと苦労をしていたかもしれません。

1900年にひらがなとカタカナを今のようにしようと決定したときに、ひらがなにもカタカナにも選ばれなかった仮名を、「変体仮名（へんたいがな）」と呼ぶようになりました。つまりそれ以降、仮名は「ひらがな」と「カタカナ」と「変体仮名」に分けられるということです。

今は、「変体仮名」は学校では習いません（高等学校芸術科書道を除きます）。

でも、それを自由に使えるのが、仮名書道です。作品では特に「ひらがな」と「変体仮名」を混ぜて使います。昔の人がいろんな種類や書き方を発明してくれたおかげで、一つの音を文字にしたいとき、たくさんの中から自由に選ぶことができます。

2. 平安時代の仮名作品『関戸本古今集』にみる文字の組み合わせ

では、仮名のおもしろさの一つである、いろんな文字の組み合わせを紹介します。

平安時代にはたくさんの仮名が書かれ、現在にも素晴らしい作品が残っています。その中に、『関戸本古今集』という作品があります（このように現代にまで伝わる昔の名作を「古筆」といいます）。造形がおもしろく、私もよく参考にしています。

さっそく、『関戸本古今集』の「はな」という仮名を見てみましょう。筆者はどんな文字を選んだのでしょうか(図1、「花」以外の意味の部分を含みます)。

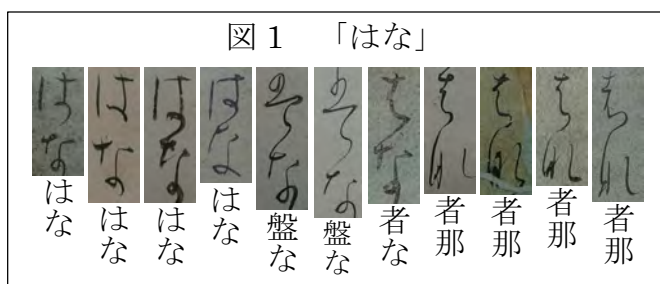
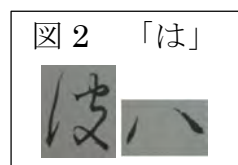
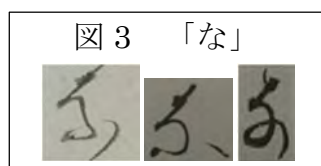


図1の下段には、それぞれ元になった漢字を交ぜて読みを書いています。「は」には3種類（「は」「盤」「者」）、「な」には2種類（「な」「那」）の文字が使われていることが分かります（なぜ「盤」や「者」が「は」なのかは、古い言葉の話なので今回は省略します）。それらを自由に組み合わせ、「はな」と書いています。しかし、同じ種類の文字を使っても、太くなる部分やつな

げる部分など、細かい部分が少しずつ違います。



では、同じ『関戸本古今集』から、他の「は」を探してみます。図2にある「は」は、左から「波」と「八」です。ひ



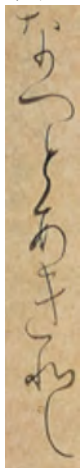
らがなの「は」は「波」からできているので、それに近い形をしています。一方、「な」の他の形には、図3のようなものがあります。実はこの3字は、すべて「奈」からできていて、ひらがなの「な」と元の漢字は同じ

です。書き方（省略のしかた）が違うだけということです。

3. いろんな仮名を使うのはなぜか

では、なぜ一度にいろんな種類や書き方を使うのでしょうか。皆さんは、ノートに書くときに、文字の書き方を選ぶとしたら、どれを選びますか。おそらく、最も簡単で書きやすいものだけを選ぶでしょう。しかし、そうしないで、いろんな種類の文字を覚えて使っているということが、当時の書き手の美的セ

図4



ンスや表現力を表しているのです。

再び『関戸本古今集』を見てみましょう。図4は、「なつとあきと」と書かれています。最後の「と」は、「登」が元である変体仮名です。「ト」の音が2回ありますが、どちらも同じ形の「と」である場合を想像してみてください。全体の形に変化が少なくなります。こんなふうに片方を変体仮名に変えるだけで雰囲気が変わるのです。

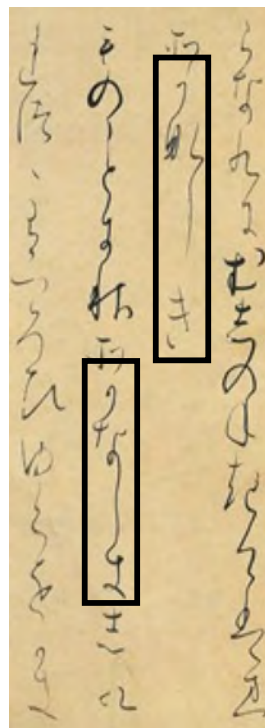
図5で、もう少し広い範囲を見てみましょう。□で囲んだところは、どちらも

「かなしき」と書いています。それぞれ元の漢字を交えて書くと、右上は「可那しき」、左下は「可なし支」となり、変体仮名を交えて表現しています。「か」と「し」は同じ文字ですが、「な」と「き」は文字を変えて、違う雰囲気にはしています。さらに文字の大きさやつなげ方、字と字の間隔にも変化をつけて、見た目はまるで違うもののように工夫しています。「し」は私たちが普段使うものとかかなり違いますね。

実はこれが、仮名書道のおもしろいところです。現在では、普通文字を書くときは、整えて書くために同じ大きさを目指します。同じ文字は同じように書きます。小学生の頃、四角い升目に大きさをそろえて、細部まで注意して書いていたこともあるでしょう。

絵画を描くことを思い浮かべてください。画面にバランスよく、たくさん描くところや、濃く塗るところなど、変化をつけますね。大きい静物を描いたり小さい静物を描いたりすることもあるでしょう。簡単に言えば、仮名書道は、それと同じです。画面に入れるのは「文字」と決まっていますが、画数が多い

図5



ところや少ないところをつくり、密集させるところと簡素にするところを考えます。「ひらがな」と「変体仮名」を使えば、画数を調整して画面に粗密の変化を加えることができるのです。

4. 変体仮名の使い方を知ろう

「ひらがな」と「変体仮名」で画面に粗密の変化をつくっていくことが分かれば、自由に作品をつくることができます。変体仮名を知らなくても、それを簡単に調べる字典や本もあります。ここでは実際に、いろんな仮名の使い方を紹介しましょう。

例えば、私の名前（きたやまさとか）を仮名書道で表現したいと思います。これまで見てきた『関戸本古今集』には、多くの種類の文字があるので、参考にします。組み合わせを参考にするために、数文字を一緒に探します。

さっそく「きた」という組み合わせを1か所発見しました。簡単に見つけられる方法がありますが、今は省略します。変体仮名を覚えていなくてもできる

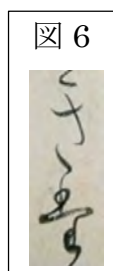


図6

わけです。図6は、「き堂」と表現していて、「た」はひらがなよりも画数を多くしています。「やま」は10か所以上ありますが、私の好きな表現を図7に挙げます。「や」はひらがなばかりですが、最終画の長さや1画目の形が異なっています。「ま」

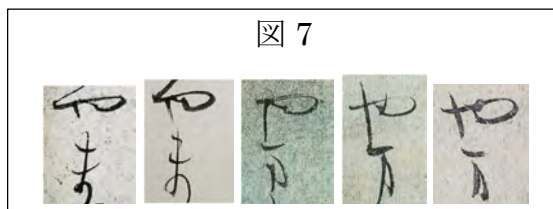


図7

はひらがなの他に「万」を使っています。因みに、「やまさ（や万佐）」と「やまさ」という部分を見つけました（図8）。これらもおもしろい表現です。さ

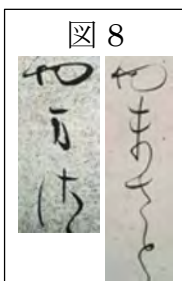


図8

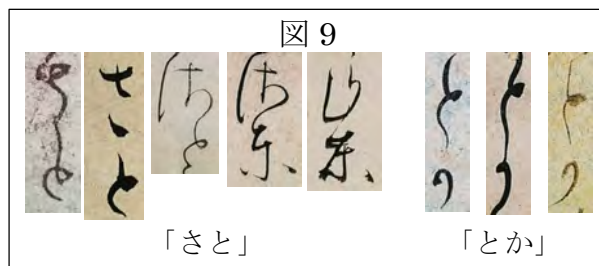


図9

「さと」

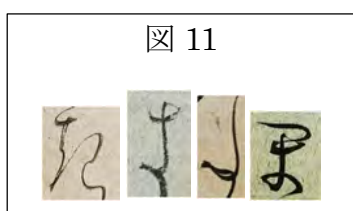
「とか」

らに「さと」と、「とか」を見つけました（図9）。「さと」は左から、ひらがなのみのものが2つ、「佐

と」「佐東」「乍東」、「とか」はすべて「と可」です。組み合わせを挙げていない「たや」「まさ」なども見てみるともっといろんな組み合わせがあることが分かります。

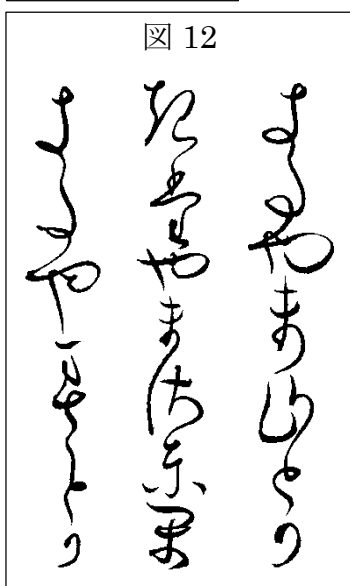
では、これらを組み合わせて、「きたやまさとか」を仮名で表現してみます。

図 10 の左が『関戸本古今集』から集めた文字で、右がそれを参考に私が書いた



たものです。粗密の変化を意識して、少し書き方に工夫をしました。筆画を近づけて書くところや、大げさに動くところを入れています。さらに

違う表現を探してみましよう。図 11 のように別の仮名を、また『関戸本古今集』から集めました。これらの仮名は何と読むのか考えてみてください。これらを使って、別の書き方をしてみます。まずは画数を減らして全体的に簡素な表現にしてみてもどうでしょう (図 12 左)。反対に、複雑な仮名ばかり使うこともできます (図 12 中央)。「や」のような、大きな円みを帯びた動きを活かして、そのような動きができる

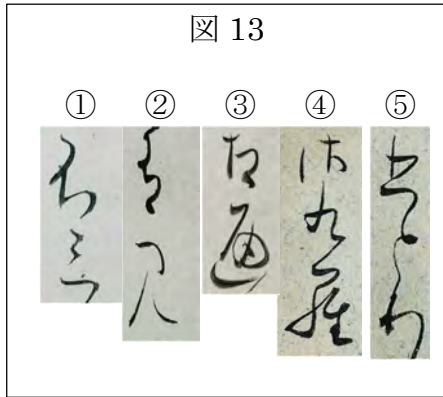


仮名を多く選ぶこともできます (図 12 右)。図 11 の仮名がどこに使われているか分かりますか。図 11 の仮名は、左から「起 (き)」「支 (き)」「多 (た)」「閑 (か)」です。

仮名で表現しようとする、このようにいろいろな書き方をすることができます。さらに、どの書き方を使うのかを、書き手が決めることができます。私はこれを書くにあたって、たくさんの文字を『関戸本古今集』で見ました。その中から、どの組み合わせにするのがよいかを考え、気に入った文字や書き方を選びました。私は、図 12 右の円みを入れた

表現が気に入っています。

実は、この組み合わせを考えることが、書き手としてのおもしろさの一つです。それはまるでジグソーパズルのようです。じっくりくる組み合わせを見つけるのは簡単ではありませんが、ぴたっと合うと、嬉しくなります。ジグソーパズルと違うところは、唯一の正解の組み合わせはなく、自分の考えや気持ちに合わせて組み合わせを変えることができることです。

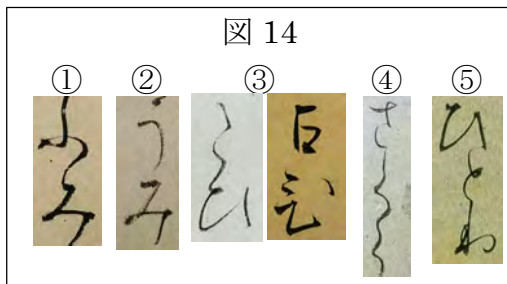


さてここで、仮名のクイズをしてみましょう。図 13 は、『関戸本古今集』に実際にある仮名の組み合わせです。いくつ読めますか。ヒントとして、それぞれの元の漢字を挙げます。

- ①不三 ②有見 ③古避
④佐九羅 ⑤悲と利 ※「と」はひらがな

この『関戸本古今集』の中にも、またこれ以外の古筆でも、同じ音なのに違う文字や書き方を使っているものはたくさんあります。私は普段からいろんな古筆を見て、おもしろい組み合わせを探しています。

さてクイズの正解は、「①ふみ②うみ③こひ④さくら⑤ひとり」です。いく



つ読めましたか（平安時代のものなので、歴史的仮名遣いです）。因みに、①から⑤の他の仮名の組み合わせを図 14 に挙げます。元の漢字を交えて書くと、①「ふみ」②「うみ」③「こひ」「古飛」④「さ

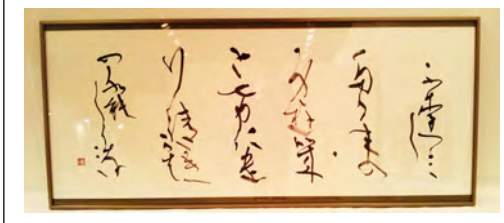
くら」⑤「ひと利」です。これらはひらがなが多い表現ですね。ひらがなも用いて、その場その場で画数の調整をしていることが分かります。

5. おわりに

好きな仮名を選んで、自分が気に入った組み合わせが見つければ、仮名作品はそれでもう完成です。しかし、絵と同じで、そのバランスがなかなか難しいのです。どのようなバランスにするか、やはり古筆をはじめたくさんの作品を参考に工夫することが必要です。仮名というジグソーパズルを完成させるための、文字のピースはたくさんあり、自分で探してくることができます。それらをどう組み合わせるかを考えなければなりません。完成予想図も自分で考えるということです。

そして、ジグソーパズルと違うところがもう一つあります。それは、仮名書道では、集めてきた文字をそのまま組み合わせるだけではなく、文字の大きさ

図 15



や太さ、さらには筆につける墨の量なども調整できるということです。それぞれのピースを、ぴったりとはめ込むために、自分で工夫して磨きあげるのです。すると完全オリジナルジグソーパズルができ

あがります。

最後に、私の仮名作品を紹介します(図 15)。これは縦 70 センチメートル、横 180 センチメートルの紙に書いたものです。数年前に書きました。内容は、短歌 1 首「ふりつみしたかねのみゆきとけにけりきよ滝川の水の白なみ」です。このように字数が多い場合には、自分がカッコいいと思う字を活かすための組み合わせを考え、カッコいい字が目立つように、周囲の仮名を集めます。一度組み立てても、1 字変えると他の組み合わせが気に入らなくなって、結局すべて組み合わせをし直すこともあります。またこの作品は、1 字 1 字が大きく、画数が少なすぎると寂しくなるので、敢えて画数の多い変体仮名を多用しています(「清(きよ)」「水」は漢字です)。

仮名はジグソーパズルのように、ピタッと組み合わせると、達成感があります。完成予想図は存在しないはずなのに、それに達したように感じるのです。そして、一度できた作品でも、またピース(仮名)を変えれば全く違う雰囲気のものとなり、それもまた完成形であるように感じる場合があります。よりカッコいい完成に出会うために、日々新しいピースを探します。だから仮名書道はおもしろいのです。

【参考文献】

古谷稔解説『日本名筆選 19 関戸本古今集 伝藤原行成筆』2003年11月、二玄社
飯島稲太郎編『伝藤原行成筆 関戸本古今集 全字典』1977年11月、書芸文化新社
「新編国歌大観」編集委員会編『新編国歌大観第一巻 勅撰集編 歌集』1983年8月、角川書店

【図版典拠】

図1、図4～図9、図10左、図11、図13、図14 前掲『日本名筆選 19 関戸本古今集 伝藤原行成筆』より作成

図2、図3 前掲『伝藤原行成筆 関戸本古今集 全字典』より作成

図10右、図12 稿者作成

図15 「第45回四国書道展（四国新聞社主催、2015年11月）」において稿者が撮影したものから作成

北山 聡佳 (Kitayama Satoka)

2010年 京都大学大学院人間・環境学研究科

修士課程修了（人間・環境学修士）

2014年 同博士後期課程単位取得退学

2011年～2012年 中国美术学院書道専攻に中国政府奨学金
留学生として留学、書道教室主宰、中学・高校教師を経て、

2018年 奈良教育大学 特任准教授



【研究テーマ】

仮名書道の作品をつくるために、どんな古筆を参考にすれば、どんなおもしろい表現ができるのかを研究しています。また、書写教育におけるひらがなの教育や、高校書道における仮名の教育についても研究しています。現代の人と「仮名」の関係について考え、「仮名」のおもしろさを多くの人に伝えたいと思っています。

【趣味】

つくること。手芸や図画工作、園芸など、細かいことを考えてやってみることが好きです。

【好きな古筆】

『香紙切』。今回紹介した『関戸本古今集』も好きですが、この古筆は筆画がグルグル回っているところがおもしろいと思います。

【好きな色】

みどり。書道の紙は色も柄もたくさんあります。『関戸本古今集』はとてもカラフルで、見ただけで楽しく感じます。いつかきれいな緑色の紙に納得のいく作品を書きたいと思っています。今はまだ、きれいな紙に書こうとすると必要以上に緊張してしまいます。

【奈良教育大学のいいところ】

毎日鹿に会えて、動物園に行かなくても癒されます。

仮名書道はジグソーパズル

－仮名文字を使った表現方法－

著者 きたやま 北山 さと 聡佳

2019年3月31日 第1版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9135 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp

URL: <http://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>